

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	乗用車販売店（従業員）	・ガソリンが高騰したまま冬を迎え、燃費が更に悪くなることから、低燃費車への台替が進むことが期待できる。
	変わらない	商店街（代表者）	・秋冬のトレンドが明確になっているというプラス面もあるが、これから冬に向けて原油高騰等の影響で防寒物の買い控えが出てくることも見込まれることから、何とも言えない状況にある。
		商店街（代表者）	・現時点において大きな変化がみられないことから、今後についても変わらないまま推移する。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・今年に入ってから、売上の厳しい状況が続いていることから、年内一杯は今の状況のまま推移する。
		百貨店（売場主任）	・原油価格の低下傾向が言われているが、物価の上昇トレンドは大きくは変わらないことが見込まれる。そのようななか、定額減税の話が出てきているが、景気を上向かせるまでの影響力はないとみられる。
		スーパー（企画担当）	・石油製品の価格上昇は冬場の家計を直撃するため、先行きへの不安感は払しょくできない。
		コンビニ（エリア担当）	・北海道などの寒冷地はこれから燃料費がかさむため、食品への支出を抑える傾向が強くなる。今年は夏場の売上が不調であったことに加えて、スーパーなどの特売も増えることが見込まれ、競争環境は厳しくなる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・光熱費がかさむ時期になるので、景気が良くなることは期待できそうもない。
		旅行代理店（従業員）	・景気に左右される業種なので、今後の動向により需要が出てくることも否定できないが、現状からは期待できそうもない状況にある。
		タクシー運転手	・北海道の傾向として、例年9～10月に向かって需要が減少することになるが、今年は8月の実績が前年を大きく下回っていることから、今後についても期待はできない。
		住宅販売会社（従業員）	・国土交通省が住宅ローン減税の延長方針を打ち出しており、これからの議論でどう転じるかにより、今後の状況を少なからず左右することになるが、全般的に停滞状態で推移することが見込まれる。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・食料品の値上げの影響が幅広く及んでくることを見込まれる。食費を抑えるだけでなく、生活関連商品全般の支出を抑えようとする生活防衛意識がますます顕著に現れることになり、今後についてはやや悪くなる。
		商店街（代表者）	・ガソリン価格がやや下がっているが、その他の物価はすべて上がっているため、今後もこの状態が続けば悪くなる。
		百貨店（売場主任）	・政治の不透明さに加えて、ガソリンの高騰、年金問題や高齢者の医療問題など、今後に向けて良い要素が全くない。
		百貨店（販売促進担当）	・原油高は頭打ちになりそうだが、食品やその他の商品の値上がりはまだまだ続きそうである。消費者のお金の使い方は本当にシビアになっており、衝動買いはほとんど期待できない。また、1つの物を買うのにも十二分に時間を掛けないと決めないなど、小売業界にとっての逆風は当然収まりそうにない。
		スーパー（店長）	・食品の価格高騰が続くなかで、目玉商品の価格訴求力がますます厳しくなっている。客は余計なものを買わず、衝動買いや関連商品のついで買いなども減少していることから、今後についてもやや悪くなる。
		スーパー（役員）	・地元建設業者等の破たんが目に見えて増えてきていることから、今後についてはやや悪くなる。
		スーパー（役員）	・現状では、商品単価が上昇していることから、客単価は前年をやや上回って推移しているが、今後については暖房費等の家計負担が増えることから、買上点数が減少することが見込まれる。
コンビニ（エリア担当）		・タスポ効果により、来客数は前年を上回っており、売上も前年を上回っているものの、客1人当たりの買上金額は前年を下回る傾向が続いている。買上金額が回復するような傾向もみられないため、今後についてはやや悪くなる。	

コンビニ（エリア担当）	・お盆明け以降、客単価の低下がみられる。ガソリン高騰、物価上昇の影響はお盆期間中もみられたが、年末に向けて顕著になっていくことが懸念される。特に年末商戦は客単価低下の波が直撃する可能性が高い。地元の一次産業の伸び悩みも継続している。こうしたなか、競合店の新規出店が相次ぐこともマイナス要因である。
コンビニ（エリア担当）	・一部の商品やガソリンの値下げが進むものの、漁業などの一次産業で操業休止などの措置をとっており、消費者全体の不安をあおっている。サブプライムローン問題もクリアできていないことから、景気は更に悪化することが見込まれる。
家電量販店（地区統括部長）	・ガソリンや灯油価格の上昇により、大型暖房の買換えが伸び悩むとみられる。また、北京オリンピックも終わったため、薄型テレビの買換えも鈍化することが見込まれる。
高級レストラン（経営者）	・7～9月と観光シーズンが続くので、その間は売上が多くなるが、物価が上昇していることもあり、その後はかなり落ち込むことが見込まれる。
高級レストラン（スタッフ）	・社会全体の景況感が下がるなかで、所得の高い比較的ゆとりのある客まで、生活防衛のためか外食を控えている。こうした状況は当分の間、続くことが見込まれることから、今後についてはやや悪くなる。
観光型ホテル（経営者）	・最近は冷え込みが厳しく、紅葉も例年より早くなりそうだが、集客が思うようにはいかず苦戦していることから、今後についてはやや悪くなる。国内団体ツアー客の落ち込みは深刻であり、地元客も地元建設業の倒産を契機に動きが悪くなっている。
観光型ホテル（スタッフ）	・8月までは国内客の減少を海外客で補ってきたが、9月以降の予約が前年を10%下回るなど、悪い状況にある。その一方で、売値を抑えたとの動きがみられることから、年度内は単価を下げて販売量を確保しなければならない状況にあり、厳しい状況にある。
旅行代理店（従業員）	・燃料高、物価高により、サービス産業は大打撃を受けており、今後についてもやや悪くなる。
タクシー運転手	・これから北海道では寒い季節を向かえるため、灯油等の燃料代が大幅に掛かってくることになる。燃料代が大きな負担となってくるため、客の財布のひもはますます固くなり、景気が悪くなる。
タクシー運転手	・燃料や物価の高騰が続いていることに加えて、これから灯油などの暖房費にお金が掛かることになるため、今後、タクシーの乗り控えが進む。
通信会社（企画担当）	・固定電話、携帯電話双方の総加入者が頭打ちのなか、信頼性よりも格安料金で利用会社を選ぶ客が増えているため、今後についてもやや悪くなる。
美容室（経営者）	・冬を控えるなか、灯油価格が130円を超えたことで、家計をかなり圧迫することが見込まれる。客との会話でも、灯油の話題がかなり出ており、今後の支出を控える傾向が増すことになる。
悪くなる	一般小売店〔土産〕（経営者） 百貨店（売場主任） スーパー（店長） スーパー（店長） スーパー（企画担当） 衣料品専門店（店長） 家電量販店（店長）
	・ガソリンの価格は下がっているが、他の生活必需品の価格が下がるとも思えないため、今後については悪くなる。 ・原油高騰により、灯油価格が前年よりも高くなっていることから、今後の買い控えが見込まれる。また、長期予報では9～11月の気温が平年よりも高くなると予想されているため、スーツやジャケットなどの秋物商品、冬物コートの販売量が減ることが懸念される。 ・今後、冬に向かい、ガソリン価格や灯油価格の高騰が生活を直撃してくる。また、電気、ガスの公共料金の値上げも見込まれることから、厳しい冬となる。農家のハウス経営なども、灯油の値上がりで経費がかさみ、収入減になることが見込まれる。 ・これから寒い時期となり、灯油の消費量が増えることになるため、それに伴って客の生活防衛意識が更に高まるが見込まれる。 ・ガソリンや原材料、各種商品の値上げに加えて、今冬の灯油代、電気代の値上がりが見込まれることから、秋冬商戦は相当厳しいものになる。 ・3か月後の北海道は雪の季節であり、灯油の値上がり在家計に大きく影響してくるため、景気は悪くなる。 ・今年度の目玉であった洞爺湖サミットと北京オリンピックが終わったことに加えて、原油高等に伴う各メーカーの秋の新製品の値上げにより、客の買い控えが懸念される。

		旅行代理店（従業員）	・ガソリンが高くなっていることから、出掛けることを控えている客が多く、今後についても悪くなる。
		タクシー運転手	・札幌では新規タクシー会社の進出を控えており、新規タクシー会社では、車両台数を増やして料金も安くすと言われている。今でもタクシー台数が多いのに、これ以上タクシー台数が増えることになれば、価格競争が起き、タクシー運転手の給料が最低賃金にも届かない状況になることが見込まれる。
		タクシー運転手	・この先、冬季の繁忙期まで売上が例年通り減少するが、現在、過去最低の水準にあることからダメージは大きい。
		観光名所（職員）	・今後も物価が高騰していくことが考えられるため、観光に掛ける経費が減少していくことが見込まれる。また、海外客についても中国を含めたアジア諸国の動向が不安定なため、楽観はできない。
		美容室（経営者）	・家計における暖房費の増加を考えると、主婦層の美容に掛けるお金の切り詰めが心配される。
		その他サービスの動向を把握できる者	・諸物価の高騰の影響により、旅行マインドが冷え切っており、前年並みに推移することは期待できない。
		設計事務所（所長）	・問い合わせ件数が激減している現在の状況から、今後の業績は間違いなく悪化する。
企業動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・着工が遅れていた公共工事が本格化してくるため、今後についてはやや良くなる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・原油価格の値下がり契機に好転することが見込まれる。
	変わらない	家具製造業（経営者）	・消費マインドが減退していることから、今後については厳しいまま変わらない。
		建設業（経営者）	・今後の受注はあまり見込めず、現在の手持ち工事の施工が中心となる。利益面において、資材の高騰と発注遅れの影響がかなり出てくることが見込まれる。
		輸送業（営業担当）	・今年の道内の農産物は、米や麦を始め順調な生育状況にあるため、今後の輸送需要の拡大が見込めるが、燃料費の負担増もあり、全体としては変わらない。
		司法書士	・個人住宅等の建物建築や不動産取引が低調であり、今後も低調なまま推移していくことが見込まれる。
		その他サービス業〔システムハウス〕（経営者）	・当社においては今後も順調な受注が見込めるものの、同業他社の見通しは明るいとは言えない状況にある。
	やや悪くなる	輸送業（支店長）	・土木建設業界の不況により、木材や鋼材の荷動きの減少が今後も続く。ただし、新千歳空港のターミナルビルや札幌駅前のビル建設などの動きが今後本格化するなど、多少の明るい材料もみられる。
		通信業（営業担当）	・客先の下期の需要予想が、軒並み前年を下回っているため、今後についてはやや悪くなる。
	金融業（企画担当）	・洞爺湖サミット効果から、秋の観光は道外客の増加が見込まれるが、ガソリン価格の上昇もあり、マイカー利用者の多い観光地は苦戦が見込まれる。また、高値が続く灯油の需要期に入り、個人の消費行動は一層慎重になる。	
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・諸物価の上昇に伴い儉約ムードが高まっており、全体の雰囲気は暗くなっている。必要最低限の物しか買えない状況にあり、今後の景気低迷は避けられない。	
	悪くなる	食料品製造業（役員）	・第1弾の値上げが遅らされているところに、秋以降の小麦粉、植物油の更なる値上げが予定されている。今後については、主原料となる国産生鮮原料も、燃料代や飼料等の高騰から値上げが見込まれるほか、輸送費の値上げも見込まれるが、その分の販売価格への転嫁は、更に遅れて来年となりそうである。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・3か月前と傾向は変わっていない。求人件数は前年を20%下回っているなど、先月に続き底ばいしている状況であり、今後についても変わらない。
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・流通業、卸売業、建設関連業、サービス業の各社の様子に回復する要因がみられない。社員教育などの相談をいくつか受けるが、これも現状打破を狙った社内体制の見直しを迫られているからのように見え、会社としての活気が感じられないことから、今後についてもやや悪くなる。	

	求人情報誌製作会社 (編集者)	・農産物の出荷用ダンボールなどの原材料の高騰から農家の収益が悪化傾向にあり、新規求人のための出費や出資に対して以前より慎重になってきている。
	職業安定所(職員)	・新規求人数が減少傾向にあり、好転する材料が見つからない。
悪くなる	-	-